

## R6.2.1「校長着任挨拶」

※学校経営と来年度の方向性の部分を抜粋して紹介します。

今年度の学校経営についてお話しします。今年度につきましては、昨年4月の年度当初に、学校からお伝えした内容を変えるつもりはありません。「知徳体の調和のとれた個性豊かな生きる力を身に付けた児童の育成」という学校教育目標の具現化に向けて、今年度、残りの学校生活は短いですが、諦めずに教職員一丸となって取り組んで参ります。

本日 朝の全校朝会においても、子ども達に、「あと2ヶ月しかないからもういいや」と考えるより、「この学校の主人公は、みなさん一人ひとりです。まだ2ヶ月もあると考えて、学校生活を諦めずにしっかり頑張って、新しい学年になろう」と伝えました。

来年度の学校経営についてです。基本的にはこれまで長年積み上げてきた上本郷第二小の良さを継承しながら、改善できる部分については、今すぐにでも取り組んでいきます。特に、私が意識しているのは、学校を知っていただくこと。昨年の12月に「いつでも授業参観」という取り組みをアナウンスさせていただきました。保護者の皆様には、基本的にはいつでも授業を見に来て構いませんという内容です。学校での様子が見えないということが、不安になり、そして不満に発展していくことがあります。本日のような授業参観も設定しますが、学校行事等で受け入れが難しい日を除けば、いつでも授業を見に来てください。少しでも不安を感じる部分があれば、ぜひ見に来てください。

そして、これからの学校教育において、子ども一人一人を、一人の担任の先生だけに任せるのではなく、多くの教職員で見守る必要があります。これまで小学校においては、一人の担任の先生が、一人の児童に対して多くの時間を一緒に過ごし、学習や生活面の指導を行ってきました。今の子ども達が大人になり、生きていく社会が、どんな社会になっているのか？ 今以上に複雑で、私たち大人世代が想像もできないほど大変な世の中になっているのではないのでしょうか？ また、SNS などの多くの情報、真実かどうかもわからない、不確かな情報に振り回されながら生きていけないといけない社会、もしかしたらバーチャルの世界の中で生きていくことが普通になっている社会かもしれません。予測不可能な社会になったとしても、その場で出会った仲間同士、初めての相手でも、思いや気持ちをくみ取りながら、自分の意見も伝える、仲間との関係性を築きながら生きていく力が子ども達には必要だと思っております。時には、全く意見が違う、また性格が合わない仲間とも出会うことも多々考えられます。それでも、しっかり話し合い、意見の合わない者同士、それぞれがベストだと思う答えにたどり着けなくても、お互いの意見をすりあわせ、お互いがある程度、納得できる答えにはたどり着けると思います。多様な他者と関わり合いながら、何とか共に生活していくということを小学生のうちから学んで欲しいと考えております。

そこで、複数の目で子ども達を見ていくという、これまでだと教職員の意識や心構えだけの話を、学校のシステムとして考えられないかと思いました。そのシステムが『学年担任制』と言われるものです。もちろん小学校段階ですので、気心知れた学級集団ということがベースになりますが、その学級という集団にこだわる

ことなく、いろいろな学びの集団を組織して、よりより教育活動を展開していきたいと考えております。

それに伴い、これまで 2 年から 3 年、4 年から 5 年の進級時に行っていたクラス替えですが、全学年で実施して、様々な子ども達、先生方と出会い、様々な考えを持っている他者との関わりから、多くのことを学び取って欲しいと思います。クラス替えを通して、私たち教職員も子ども達への 1 年間の指導をしっかりと振り返り、次の学年につなげていく。1 年 1 年が勝負だと改めて気を引き締めていくこととなります。

クラス替えは、子ども達一人ひとりを様々な角度で捉え、学校主体で取り組んで参ります。クラス替えについて、「〇〇さんと一緒のクラスがいい」とか、その逆など、ご意見はお聞きすることはできますが、クラス替えについての申し出をお約束できないことはご承知おきください。クラス替えを行い、担任も決めますが、学習や生活面において、学年担任制という大きな集団から、その時、教育的効果が一番大きい学ぶ集団を組織しながら、進めていこうと考えています。

ご理解ご協力をお願いいたします。